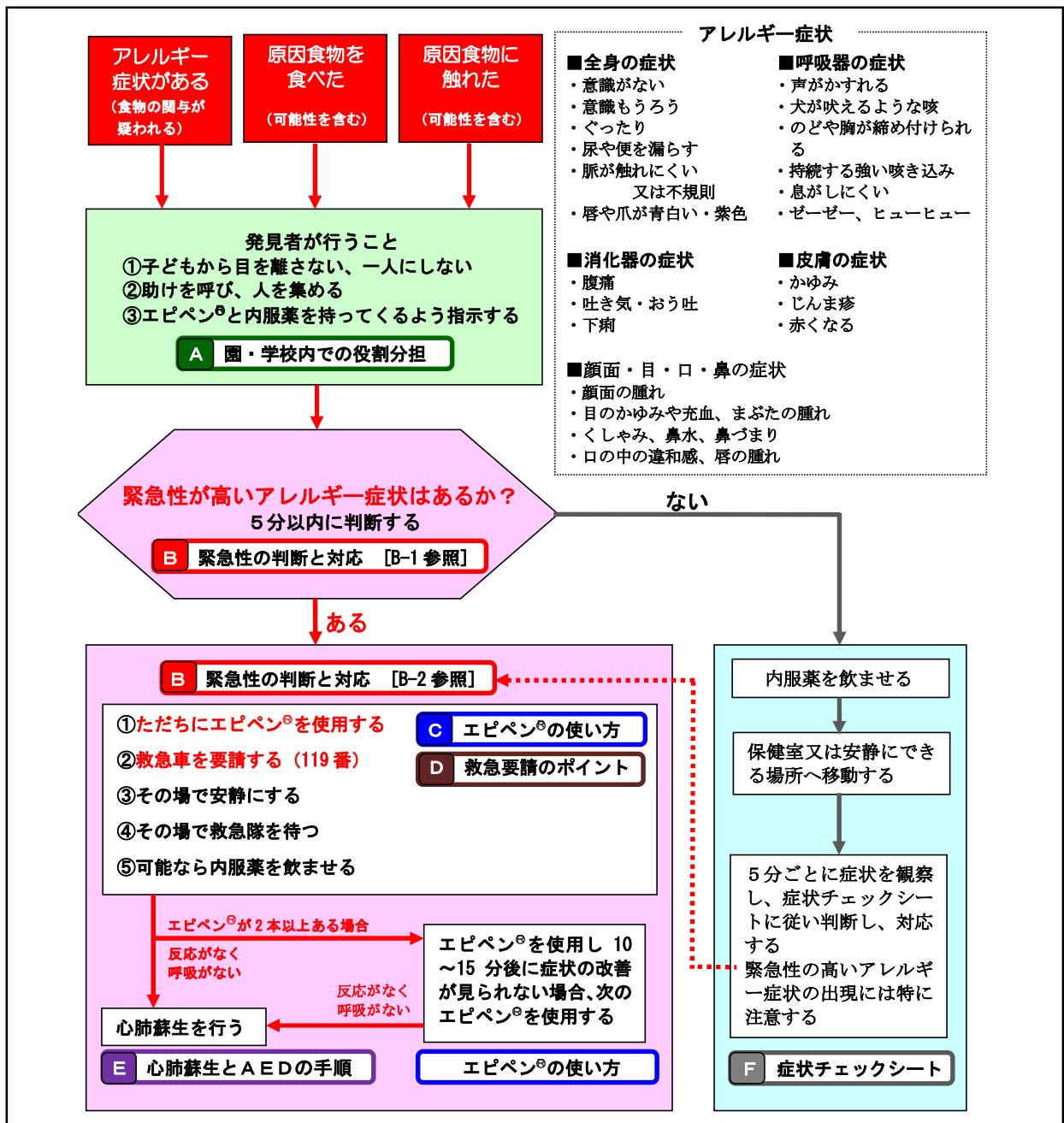


第4章 食物アレルギー事故発生時の緊急時対応

アレルギー疾患の緊急時に適切な対応をするためには、日頃からの準備と緊急時に適切に行動できるようにするための訓練が必要です。日頃からの準備は、食物アレルギー対応委員会の中で行います。緊急時に適切な行動ができるようにするため、緊急時対応マニュアルの整備をすること、緊急時にしなくてはいけないことを予め整理をし、役割分担ができるように全教職員が理解すること、行動ができるように定期的に訓練することが必要です。

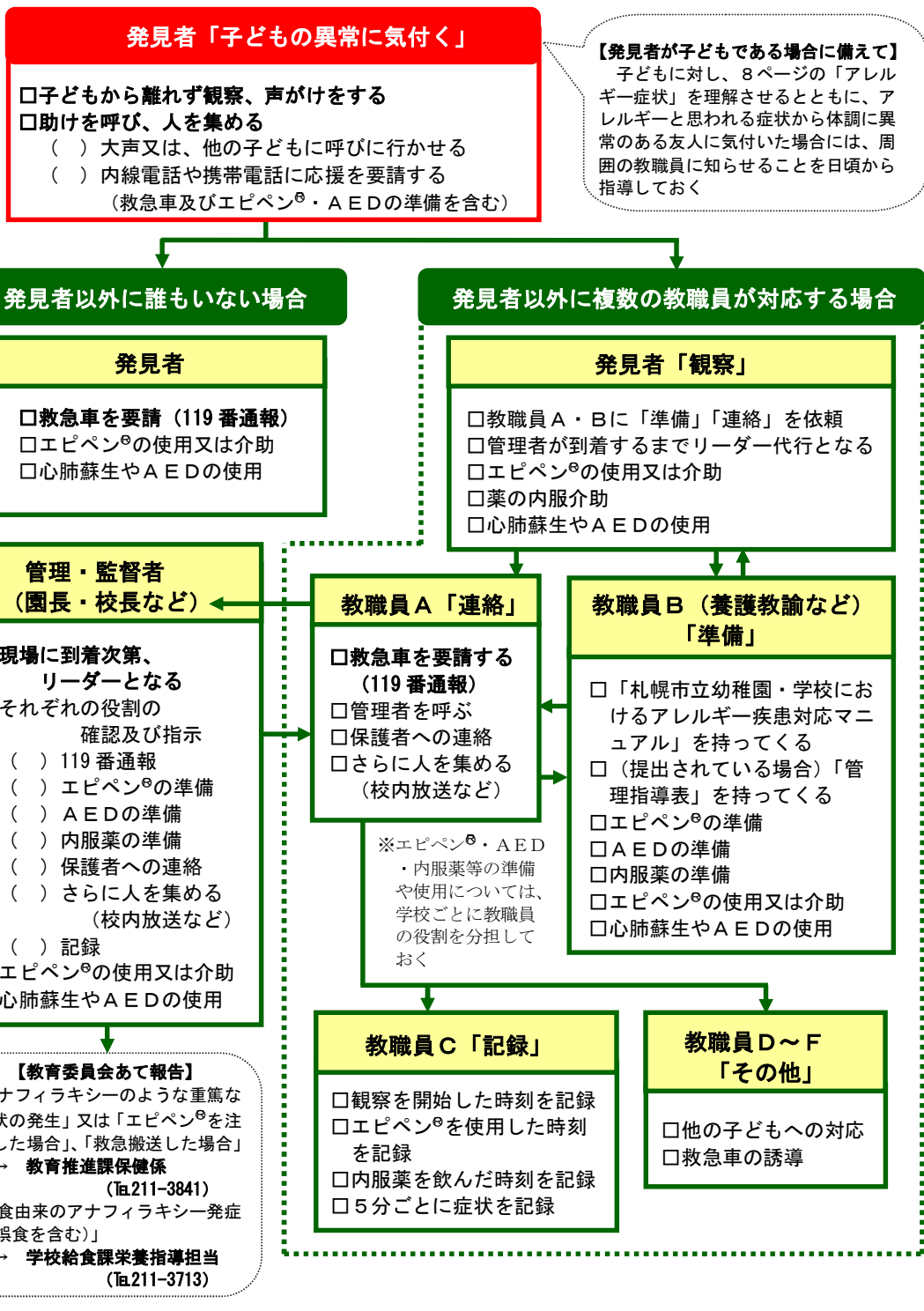
<対応の手順>

札幌市立幼稚園・学校におけるアレルギー疾患対応マニュアルより抜粋



A 園・学校内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し、事前にシミュレーションを行う



B 緊急性の判断と対応

- ◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！
- ◆迷ったらエピペン®を打つ！ただちに119番通報する！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便をもらす
- 脈が触れにくい又は不規則
- 唇や爪が青白い・紫色

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

- 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

一つでもあてはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

①ただちにエピペン®を使用する！

⇒ **C エピペン®の使い方**

②救急車を要請する(119番通報)

⇒ **D 救急要請のポイント**

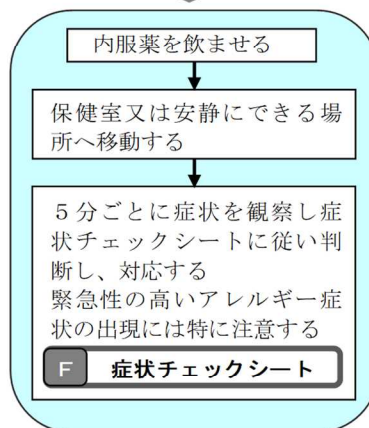
③その場で安静にする(下記の体位を参照)

- ・声がけをしながら観察する
- ・立たせたり、歩かせたりしない! 背負ったりしない!
(やむを得ず移動する場合は担架を使用する)

④その場で救急隊を待つ

⑤可能なら内服薬を飲ませる

- ◆エピペン®を使用し10~15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する(2本以上ある場合)
- ◆反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う ⇒ **E 心肺蘇生とAEDの手順**



《安静を保つ体位》

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15~30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく、仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

C

エピペン[®]の使い方

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け、
エピペン[®]を取り出す

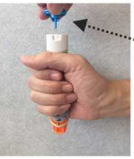
② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを
下に向け。利き手で持つ
“グー”で握る！

← オレンジ色のニードルカバー

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン[®]の先端
(オレンジ色の部分)を軽く当て、
“カチッ”と音がするまで本体を
強く押し当てそのまま五つ数える
注射した後すぐに抜かない！
押し付けたまま五つ数える！

⑤ 確認する



使用前

使用后

エピペン[®]を太ももから離し、オ
レンジ色のニードルカバーが伸び
ているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ マッサージする



打った部位を 10 秒間、
マッサージする

介助者がいる場合



介助者は、子どもの太ももの
付け根と膝をしっかり抑え、
動かないように固定する

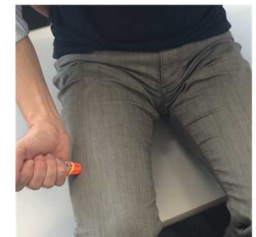
注射する部位

- ・衣類の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ真ん中よりやや外側に注射する

仰向けの場合



座位の場合



D 救急要請（119番通報）のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える



119番、消防です
火事ですか？
救急ですか？

①救急であることを伝える

救急です。



住所はどこ
ですか？

〇区〇条〇丁目
〇〇〇園・学校
です。



②救急車に来てほしい住所を伝える

住所、園・学校名をあらかじめ記載しておく



どうし
ましたか？

8歳の児童が
給食を食べたあと
呼吸が苦しいと
言っています。



③「いつ、だれが、どうして、現在
どのような状態なのか」をわかる
範囲で伝える

エピペン[®]の処方やエピペン[®]の使用の有無を
伝える



あなたの名前と連絡先を
教えてください。

私の名前は
〇×□です。
電話番号は…



④通報している人の氏名と連絡先を
伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

- 向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくる場合があります。
 - ・ 通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておきます。
 - ・ 救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞きながら対応します。
- 園・学校の玄関に救急車の誘導係を配置します。
- 救急隊に渡すため、「管理指導表」等を準備します。

E 心肺蘇生とAEDの手順

- ◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！
- ◆救急隊に引き継ぐまで、又は子どもに普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける

①反応の確認

肩を叩いて大声で呼びかける
乳幼児では足の裏を叩いて呼びかける

反応がない

②通報

119番通報とAEDの手配を頼む

③呼吸の確認

10秒以内で胸とお腹の動きを見る

普段通りの呼吸をしていない

※普段通りの呼吸をしているようなら、観察を続けながら救急隊の到着を待つ

④必ず胸骨圧迫！可能なら人工呼吸！

※胸骨圧迫30回の後に、人工呼吸を2回行う
ただちに胸骨圧迫を開始する
人工呼吸の準備ができ次第、可能なら人工呼吸を行う

⑤AEDのメッセージに従う

電源ボタンを押す
パッドを貼り、AEDの自動解析に従う

(AEDの機種によっては、操作方法が異なる場合がある)

【胸骨圧迫のポイント】



- ◎強く（胸の厚さの約1/3）
- ◎速く（少なくとも100回/分）
- ◎絶え間なく（中断を最小限にする）
- ◎圧迫する位置は「胸の真ん中」

【人工呼吸のポイント】

- 息を吹きこむ際
- ◎約1秒かけて
- ◎胸の上がりが見える程度

【AED装着のポイント】

- ◎電極パッドを貼り付ける時も、できるだけ胸骨圧迫を継続する
- ◎電極パッドを貼る位置が汗などで濡れていたらタオル等で拭き取る
- ◎成人用と小児用の二種類の電極パッドが入っている機種や、成人用モードと小児用モードの切り替えのある機種があるが、小学生以上には、成人用の電極パッド（成人用モード）を使用する
- ◎「ショックは不要です」などの音声メッセージが流れた場合は、直ちに胸骨圧迫を再開する

【心電図解析のポイント】

- ◎心電図解析中は、子どもに触れないように周囲に声をかける



【ショックのポイント】

- ◎誰も子どもに触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押す

F 症状チェックシート

- ◆ 症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する
- ◆ の症状が一つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻 (時 分) 内服した時刻 (時 分) エピペン®を使用した時刻 (時 分)

全身の 症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便をもらす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくい又は不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い・紫色		
呼吸器 の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器 の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできな い)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1~2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1~2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんで きる) <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・ 鼻・顔面 の症状	上記の症状が 一つでもあてはまる場合	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ、充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感、唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の 症状		<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
		一つでもあてはまる場合	一つでもあてはまる場合

①ただちにエピペン®を使用する！

②救急車を要請する(119番通報)

③その場で安静を保つ

- ・声がけをしながら観察する
- ・立たせたり、歩かせたりしない！
- ・背負ったりしない！
- (やむを得ず移動する場合は担架を使用する)

④その場で救急隊を待つ

⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 [B-2参照]

ただちに救急車で
医療機関へ搬送

①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する

(症状が明らかに進行性であり、エピペン®を携行していない場合は救急車を要請する)

②速やかに医療機関を受診する(救急車を要請も考慮)

③医療機関に到着するまで5分ごとに症状の変化を観察し、 の症状が一つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

速やかに
医療機関を受診

①内服薬を飲ませる

②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

安静にし、
注意深く経過観察